

シムポジウム2

演題名

大学の感染学講座として目指す感染対策

講演者

黒沼 幸治

所属

札幌医科大学 医学部 感染学講座 感染症学分野 教授

抄録

新型コロナウイルス感染症のパンデミックでは、感染症専門医・呼吸器内科医が中心となって診療・感染対策を行ったが、感染症対策は多くの診療科の日常診療を支える重要な医療基盤であることを改めて示した。呼吸器科医は、肺炎や薬剤耐性感染症のみならず、結核、新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ、RSV 感染症など感染伝播リスクの高い疾患の診療を担う機会が多く、診断・治療に加えて適切な感染対策を実践し、院内外への感染拡大を防ぐ役割が求められている。2025 年 10 月、札幌医科大学に北海道初となる臨床感染症学を専門とする感染学講座感染症学分野が開設された。本講座では、感染症診療、感染制御、臨床微生物学、教育、研究を一体的に推進し、地域医療機関や行政との連携を通じて北海道全体の感染対策の充実を目指している。大学には、高度な専門診療のみならず、科学的根拠に基づく感染対策の発信、人材育成、アウトブレイク対応支援、新興・再興感染症への備えなど、地域を支える拠点としての役割が期待されている。本講演では、呼吸器内科医・感染症専門医・感染制御医としての経験を踏まえ、ポスト COVID 時代に求められる感染対策のあり方を概説するとともに、感染対策の中心となる医師が果たすべき役割と、大学感染学講座が地域の感染対策をどのように支えていくべきかについて考察したい。